



▶「原爆殉難教え子と教師の像」の前にて



長崎の鐘

◀原爆殉難者の冥福を祈り、再び原子爆弾が地球でさく裂しないようにこの鐘を鳴らし続けようと、昭和52年に設置されました。

※市の同報無線で原爆記念日などに流している鐘の音は、この「長崎の鐘」の音です



▲平和祈念式典で黙とうをする3人

た鉄骨や、熱線で焼かれた皮膚など目を背けたくなるようなものばかりでした。
二つ目は、被爆者の人々の思いでした。「どうして、なんで…」そんな思いが胸に響きました。式典に参列して「もう二度と、戦争を起こしてはいけない」そう思いました。
今、わたしたちが生きるこの世界では核兵器がたくさん作られています。再び同じ惨劇が起こらないようにするには、わたしたち自身一人一人が平和についてもっと真剣に考えるべきだと思いました。

派遣生の3人は、去る8月11日（金）、市長に参加報告をしました。参加した派遣生の感想は、感想文のとおりですが、報告を受けた市長は、派遣生に対して「自分から参加を決意したことは、大変素晴らしいこと。この気持ちを大切にして、実際に目で見て感じてきたことを、これからの生き方に生かしてください」とコメントをしました。
終戦後60年以上経過している今日、戦争の記憶が風化しつつあります。しかし、日本の歴史を語る上で、戦争の事実は絶対に語り継いでいく必要があります。



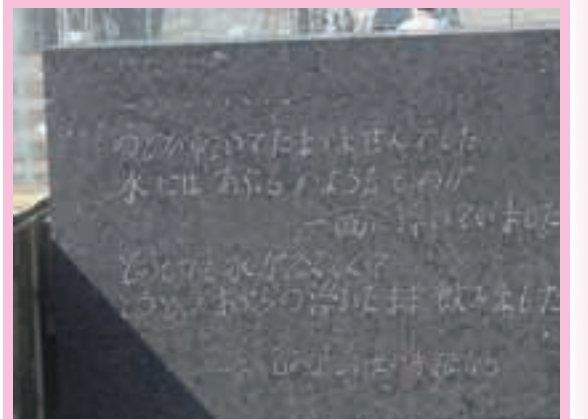
青少年ピースフォーラム報告会

▶「平和の泉」にある石碑

原爆のため体内まで焼けた被爆者は「水を」「水を」とうめき叫びながら死んでいったそうです。その痛ましい霊に水をささげて、冥福を祈り、世界恒久平和を祈念するため、核兵器禁止世界平和建設国民会議と長崎市は、全国からの浄財を基として、「平和の泉」を建設しました。

刻々と変化する水の形は、平和のシンボルであるハトの羽ばたきを表しているそうです。

▼「平和の泉」にて



のどが乾いてたまりませんでした
水にはあぶらのようなものが
一面に浮いていました
どうしても水が欲しくて
とうとうあぶらの浮いたまま飲みました

—あの日のある少女の手記から

わたしは今回、初めて長崎に行きました。そして、全国各地の小中学生とともに被爆者の方の講話を聞いたり、長崎の原爆被害地を実際に自分の目で見てきたりしました。中には目を背けたくなるような写真もいくつかありました。「熱い…苦しい…痛い…」と言いながら亡くなった人々、そんなことを言う間もなく亡くなった人々、そして、今もまだ後遺症に苦しむ人々と、本当に多くの犠牲者を出した原爆は、もう二度と使われてはならないと思いました。世界唯一の被爆国に生まれてきたわたしたちだからこそ戦争の恐ろしさを知らなければならぬと思います。また、忘れてはならないのは、被害を受けたのは日本だけではないということです。他の国の人々も同じように苦しみ、亡くなっているのです。だからこそ、戦争は起こしてはならないと思います。そして、もう二度とあんな悲惨な出来事が起

こらないようにわたしたちの世代も戦争の恐ろしさを知り、次世代へと語り継いでいかなければならないと思いました。

平和について、もっと
真剣に考えるべき



東中学校3年
渡辺 美穂さん

「どうして核兵器や戦争が起こるのだろう」最初に思った疑問がこのピースフォーラムで分かりました。わたしはピースフォーラムへ行って分かったことや思ったことがたくさんありました。その中で特に心に残ったのが二つあります。
一つ目は、原爆の恐ろしさです。投下されたときの写真や遺品などを見て当時の悲惨さが体にひしひしと伝わってきました。爆風によって折れ